

生きる力を支える医療へ

緩和ケア・リハビリテーション医療

Fujita Health University Nanakuri Memorial Hospital

REHABILITATION
PALLIATIVE CARE
NST
DEMENTIA THERAPY



藤田医科大学 七栗記念病院
FUJITA HEALTH UNIVERSITY NANAKURI MEMORIAL HOSPITAL

その人らしい生活の
ために寄り添う



そして先進の医療

2017年、ロボット練習など革新的なリハビリテーションを
提供する先進リハビリテーション棟を創りました。
患者さんのより良い未来のために、
ご活用下さい。



理 念

我ら、弱き人々への無限の同情心もて、
片時も自己に驕ることなく医を行わん。

基本方針

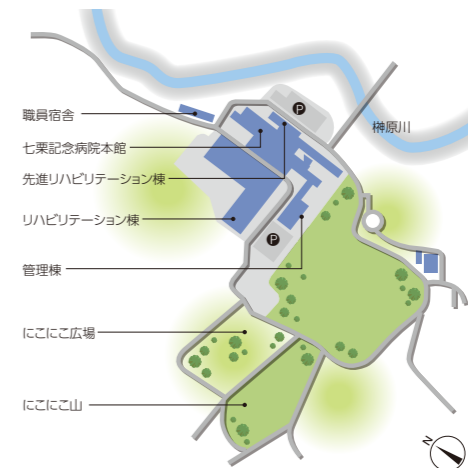
科学性と専門性の高い独創的なリハビリテーション、緩和ケア、栄養サポート、
高齢者医療、認知症医療を追求することで、地域に貢献します。
患者さん・ご家族のお話を聴き、十分説明を行い、同意を頂いて医療を行います。
患者さんの医療への参加を促し、医療安全の向上に努めます。
医療従事者間の情報共有を適切に行い、チーム医療を有効に機能させます。

病院概要

[診療科目]

- ・内 科
- ・緩和ケア・外科
- ・リハビリテーション科
- ・歯 科

[病 床 数] 218床



本 館

- 1階病棟：緩和ケア病棟〈20床〉
- 3階病棟：回復期リハビリテーション病棟〈54床〉
- 4階病棟：一般病棟（緩和ケア・外科・内科・リハビリテーション科）〈48床〉
- 5階病棟：回復期リハビリテーション病棟〈41床〉

リハビリ棟

- 2階病棟：回復期リハビリテーション病棟〈55床〉

いつも患者さんと ご家族の思いを胸に

七栗記念病院は皆さんのためにあります。

藤田医科大学七栗記念病院には特徴的な医療・介護があります。

リハビリテーションと緩和ケアです。

週7日の回復期リハビリテーションやロボットを用いたリハビリテーション、

栄養など多方面から取り組む緩和ケア、終末期に至る前からで

自宅に戻る緩和ケアなどを行い、質を高めてきました。

これらを支えるチーム医療は私たちの得意とするところです。

さらに訪問事業など、地域とのつながりも深めていっています。

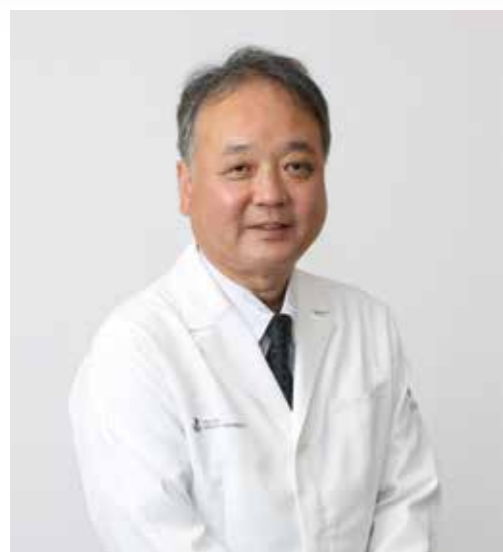
七栗記念病院は歩みを止めません。

皆さんと誠実に向きあい、

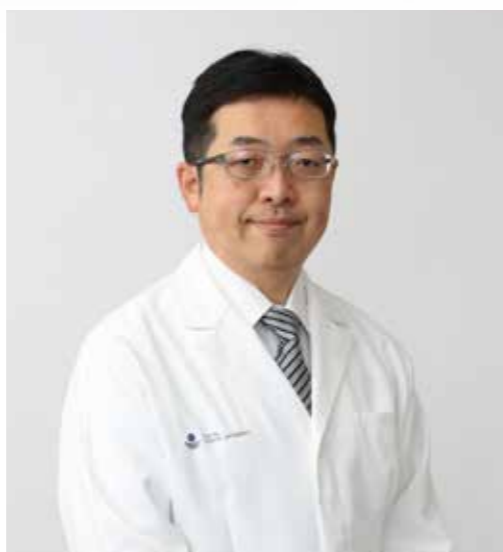
より効果的な医療・介護を求めて前進していきます。



病院長 **大高 洋平**
リハビリテーション医学講座主任教授

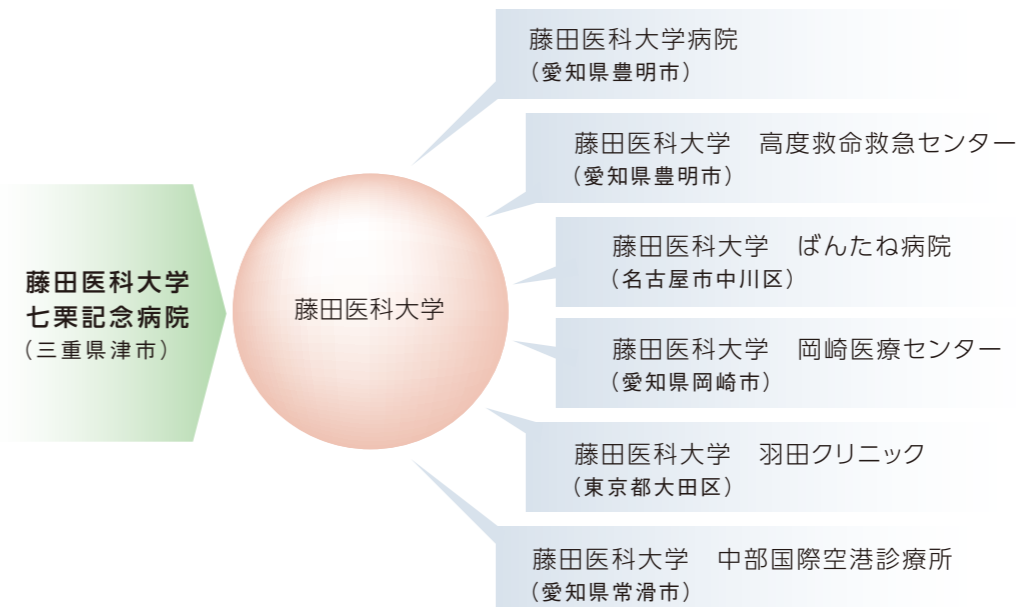


副院長 **臼井 正信**
外科・緩和医療学講座主任教授



副院長 **平野 哲**
リハビリテーション医学講座教授

関連機関

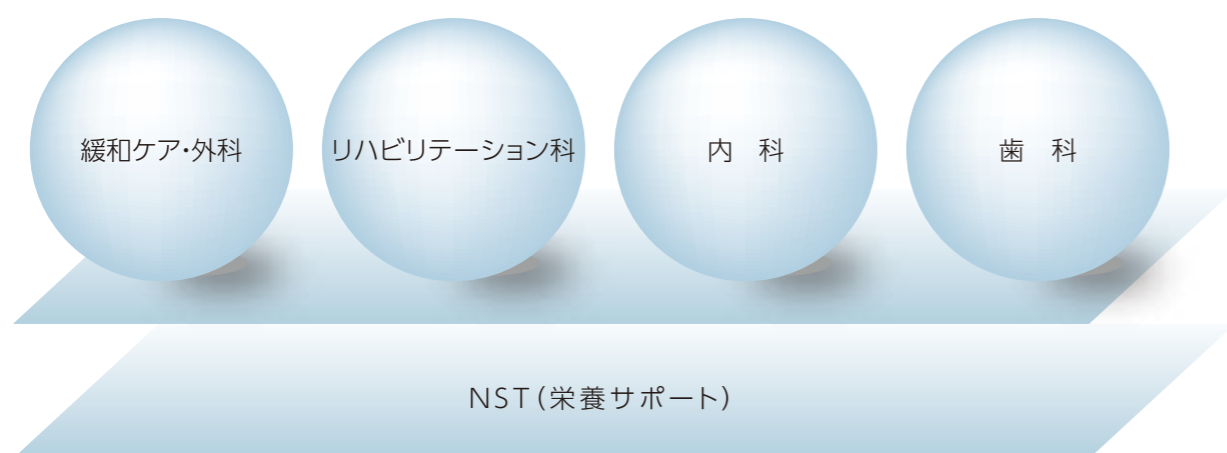


沿革

昭和62年 4月	藤田学園保健衛生大学七栗サナトリウム開設
平成 3年 4月	藤田保健衛生大学七栗サナトリウムに名称変更
平成 9年 7月	緩和ケア病棟開設(18床)
平成10年 4月	在宅介護支援センター開設
平成11年11月	デイケアセンター開設
平成12年12月	リハビリテーションセンター開設
平成13年 4月	歯科開設
平成13年 5月	回復期リハビリテーション病棟開設(52床)
平成13年 5月	療養病棟開設(40床)
平成15年 7月	療養病棟増床(44床)
平成15年12月	回復期リハビリテーション病棟増床(2病棟106床)
平成16年 6月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院
平成17年 4月	日本医療機能評価機構付加機能、リハビリテーション機能認定取得
平成18年 6月	日本医療機能評価機構付加機能、緩和ケア機能認定取得
平成21年 7月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院更新
平成22年 4月	日本医療機能評価機構付加機能、リハビリテーション機能認定更新
平成22年10月	緩和ケア病棟増床(20床)、一般病棟(外科・内科・リハビリテーション科)減床(48床)
平成23年 6月	日本医療機能評価機構付加機能緩和ケア機能認定更新
平成26年 6月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院更新
平成26年 8月	回復期リハビリテーション病棟増床(2階病棟55床)、療養病棟減床(41床)
平成28年 1月	藤田保健衛生大学七栗記念病院に名称変更
平成28年 8月	訪問リハビリテーション事業所開設
平成28年 9月	療養病棟(41床)を回復期リハビリテーション病棟(41床)に変更
平成30年10月	藤田医科大学七栗記念病院に名称変更
平成31年 6月	日本医療機能評価機構本体機能認定病院更新
令和 2年 4月	訪問看護事業所 訪問介護事業所 居宅介護支援事業所 開設
令和 2年 4月	日本医療機能評価機構 高度・専門機能:リハビリテーション(回復期) Ver.1.0認定

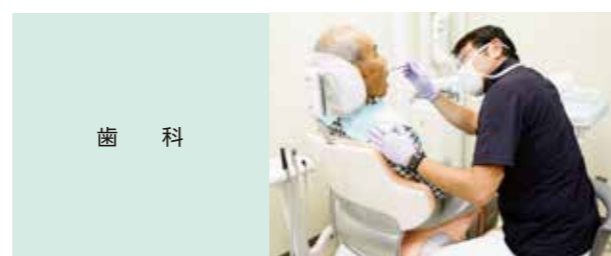
私たちの使命は、患者さんのQOL向上に全力で取り組むこと

当院は、回復期リハビリテーション、緩和ケア、認知症の3つを中心に、
 患者さんが生きる喜びを実感できる医療、1日も早く在宅で自立した生活ができる医療を通じて、
 患者さんお一人おひとりのQOL向上に取り組んでいます。



特化した医療分野を追究

緩和ケア・外科、リハビリテーション科、内科、歯科の各診療科はつねに連携し、患者さんの情報を共有しながらより良い医療を実現しています。



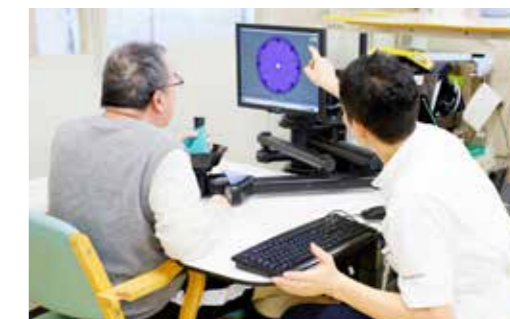
栄養管理で患者さんをサポート

栄養管理をすべての治療の上で共通する基本的医療と捉え、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師など多職種のスタッフで構成するチーム医療を栄養サポートチーム (NST) と言います。緩和ケアをはじめ全診療科にNSTを浸透させ、個々の患者さんの状態に応じた適切な栄養管理による治療を実践しています。



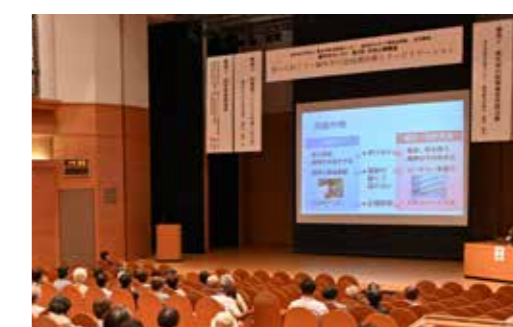
最先端の医療技術を導入

当院では、様々な機器・技術を用いた運動麻痺練習を行っていますが、近年では上肢訓練ロボット・電気刺激など最先端の医療機器を積極的に導入しています。さらに、リハビリ機器開発の企画から参画して、短期間でリハビリ効果が期待できる医療用ロボットの開発にも携わっています。



特化した医療を整備

広く浅くではなく、特化した医療分野で充実した医療体制を整えているのが当院の大きな特徴です。医師・看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー、管理栄養士など認定された多職種の専門スタッフが、専門性を発揮しながら、患者さんの生きる喜びや早期の社会復帰という目的に力を合わせて取り組んでいます。



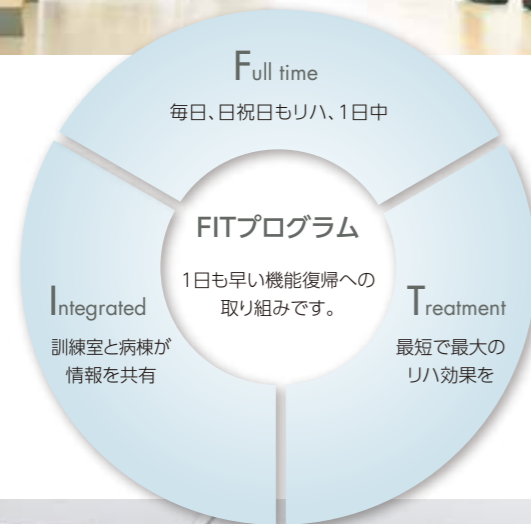
大学病院として情報発信

緩和ケア、リハビリテーションのセミナー・研究会による啓発活動のほか、高齢者医療に関連した健康維持、がん予防など広範なテーマによる講演会等を地域社会に向けて開催しています。また、三重県の医療従事者の育成を目的としたMMC (Mie Medical Complex) にも参加し、大学病院としてあるべき活動を推進しています。

週7日間がんばれる 回復期リハビリテーション



幅6mの廊下



治療コンセプト

当院では患者さんの症状の回復・スムーズな社会復帰を目標としたFIT program、週7日間の集中的なリハビリテーションを行っています。これは厳しい訓練では無く、動きかたを身につけるための科学的な練習方法です。常に患者さんの気持ちを大切にしています。新たな機器も開発・活用して、ここでしか出来ないリハビリテーションが展開されます。



先進のリハビリテーション

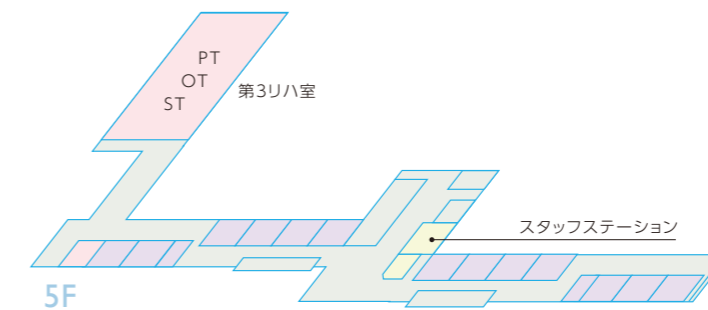
新たに出来た先進リハビリテーション棟の訓練室には、ロボット歩行訓練やバランス訓練、安全懸垂装置、リハビリテーション成果を数値やグラフにする評価機器などが備えられ、訓練効果を高めています。

心身にやる気がみなぎる施設・環境づくり

リハビリテーション室と病室を融合した病棟
練習室と病棟を一体化させることで、24時間リハビリへの意識を引き出します。メインの練習室は横幅6m長さ50mの広く開放感のある廊下です。この廊下に隣接して病室があるため、患者さん同士がお互いに励ましあいながらリハビリに打ち込む様子がみられます。



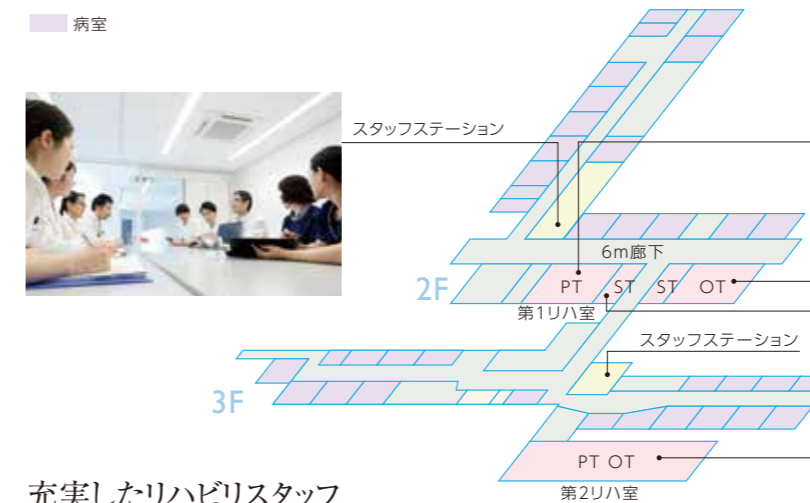
廊下から見る病室内



病室



スタッフステーション



理学療法 (PT)



作業療法 (OT)



言語聴覚 (ST)



患者さん一人ひとりに最適な練習

充実したリハビリスタッフ

リハビリスタッフは医師9名、理学療法士43名、作業療法士42名、言語聴覚士21名です。各分野から選抜されたスタッフによるチームで患者さんを担当し、機能回復に取り組んでいます。

MESSAGE

リハビリテーション部 専門技師 理学療法士

医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、多職種で構成されたチームで医療サービスを提供いたします。各職種の高度な専門性、最新の知見、ロボットなどの様々なテクノロジーを駆使し、安全で安心な入院生活の提供と最適なリハビリテーションを実践していきます。チームの中心は患者さんです。ご家族の皆様もぜひチームの一員となって頂き、私たちと共に良い医療の実現にご協力ください。



こころ からだ
精神にも身体にもやさしい
緩和医療を



1997年、当院は、大学病院として本邦で初めて緩和ケア病棟を開設しました。
以来、「適切な緩和ケアを実施し、最後まで有意義な社会生活を送れるようにすべきである」という方針に基づいて、8つの柱を中心とした緩和医療を実践し、
患者さんが抱える痛みや苦しみを和らげ、生活の質を向上すべく日夜努力しております。

緩和ケアは、8つの柱を実践し、患者さんの穏やかな日常をサポートします。

- | | | | | | | | |
|--------------|---------------|--------------------------------|-----------------------------|-------------|-------------------|------------------|-------------------------------|
| 1
癒し環境の提供 | 2
全人的医療の実践 | 3
緩和ケアNST
(栄養サポートチーム)の設立 | 4
コミュニティ
(相補的支援体制)の構築 | 5
腫瘍学の導入 | 6
自立型地域医療連携の創設 | 7
情報共有と発進力の強化 | 8
幸せな人生の提示
(劇場型緩和ケアの関連) |
|--------------|---------------|--------------------------------|-----------------------------|-------------|-------------------|------------------|-------------------------------|

当院のめざす緩和ケア

患者さんの不快な症状(痛み、倦怠感、息苦しさなど)を緩和することによって、充実した時を過ごしていただくように援助することを目的としています。患者さんやご家族の意思を尊重し、今を生きていることに喜びや、安らぎを感じられるケアを実践しています。



ふれあいと癒しの空間を提供

手厚い「おもてなしの心」をモットーに、患者さんご家族との交流を大切にしています。ボランティアによる季節の料理に舌鼓を打ちながら、昔懐かしい思い出のメロディーに酔いしれるコンサートなどで楽しく、癒されるひと時をコミュニティドームで共有しています。



栄養管理が支える医療(緩和ケアNST)

栄養管理はすべての治療、ケアの上で根幹となる医療です。医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、歯科医師、医療ソーシャルワーカーなど多職種が奏でるチーム医療(NST)が口から食べることをサポートしています。



NST (栄養管理)

免疫力の向上 → 感染防止
日常生活動作の維持 → 褥瘡防止

QOL(生活の質)の改善・向上

ハイブリッド緩和ケア(一般病棟)

一般病棟でありながらワンランク上の癒しの空間の中で、症状の緩和・専門的な栄養・管理がん治療・腹水濾過濃縮再静注法などを行い、精神(こころ)身体(からだ)にもやさしい緩和医療を提供しています。



ひとりの患者さんのために、 スペシャリストが力を結集

当院は、リハビリテーションおよび緩和ケアに特化した専門性の高い大学病院として、各専門分野の知識・経験を有するスタッフが相互に連携・コミュニケーションを密にしながら、それぞれの専門性を活かすチーム医療を推進しています。



チーム医療を支えるNST(栄養サポートチーム)

当院のチーム医療の中核にあるのは、NST活動です。栄養管理はすべての疾患治療の上で共通する基本的医療の一つです。質の高い栄養管理を提供することで、様々な合併症を予防しております。加えて医療の安全管理を確立させリスクを回避し、患者さんのQOL向上につなげていくという考えから、各専門分野の領域を超え、すべての職員がNSTを柱とした医療を実践しています。



全職員が安心の医療を進めていくための委員会

すべての患者さんに安心の医療を提供するために、それぞれのテーマを追求した各種の委員会活動を行っています。これらの委員会を通じて、全職員が安心の医療・ケアを提供できる環境づくりを推進しています。

- 安全管理委員会
- 患者・職員満足度向上委員会
- 感染防止委員会
- 防災部会

安心して療養生活を送れる看護を提供する

看護部

理念 | 人に優しく、患者さん中心の看護を実践します

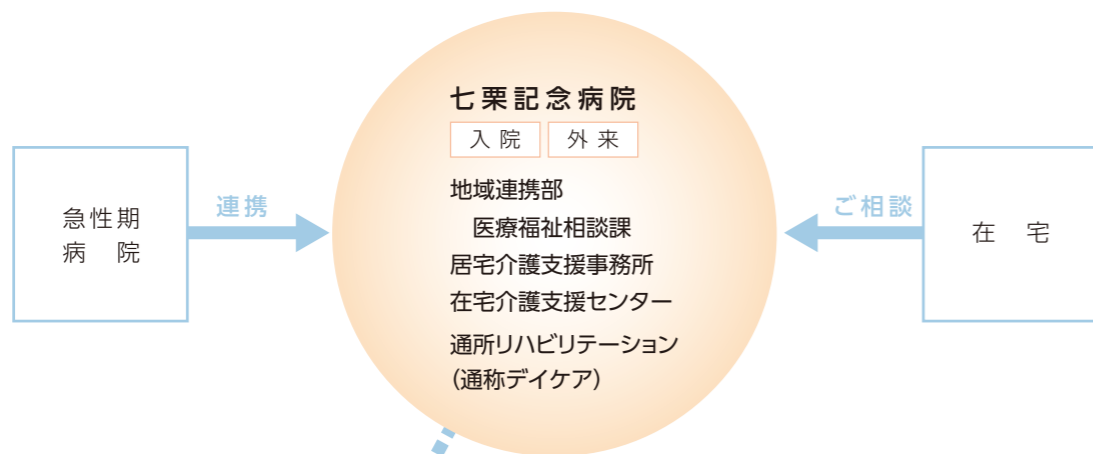
- 基本方針
1. 専門的知識、確かな判断・技術に基づいた安全・安心な看護を実践します
 2. 患者さんの権利を尊重し、心に寄り添った看護を実践します
 3. ホスピタリティを大切にし、快適な療法環境を提供します





人と地域のつながりを大切にしています

当院では、介護や福祉に関するお悩みや質問にお答えする窓口として地域連携部(医療福祉相談室)、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターを設けています。入院時はもちろんのこと、退院後の生活についても病院や地域の中で、患者さんが適切な医療・福祉・介護が受けられるよう、親身になって対応しています。



地域と連携する医療機関として

人と地域とのつながりを大切にする大学病院でありたい。そんな思いから、退院後のフォローだけでなく、急性期病院との連携を強化し、患者さんの受け入れ、急変時にもスムーズに対応します。

地域連携



医療福祉相談課
医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)が、入院や転院に関する様々なご相談にお応えします。



在宅介護支援センター
介護サービスの紹介、福祉機器、住宅改修の相談・手続きなど、在宅のためのお手伝いを実施します。



入退院支援課
入院に際して、患者さん、ご家族が安心していただけるよう、紹介元医療機関などと連携し、サポートします。

通所



通所リハビリテーション(通称:デイケア)

退院後、在宅で過ごしている方がリハビリや入浴(温泉水)、レクリエーションなどをして過ごします。

訪問事業



訪問看護
看護師が自宅を訪問し病気に応じた看護を行い、健康状態の悪化防止や、回復に向けたお手伝いをします。

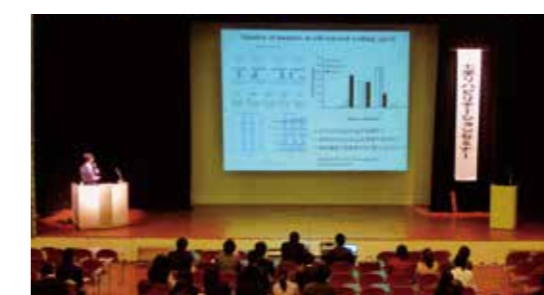


訪問リハビリテーション
退院後の生活、在宅支援として利用者さんの自宅を訪問してリハビリテーションを提供しています。



訪問介護
介護が必要になった方が可能な限り在宅生活を続けていけるよう適切な介護サービスでサポートします。

啓発活動



七栗緩和ケアセミナー・七栗リハビリテーションセミナー

より良い緩和ケアやリハビリテーションの啓発に努めるためのセミナーを開催しています。

学校法人藤田学園

法人本部

大学・学校 | 藤田医科大学 大学院
藤田医科大学

病院・診療所

藤田医科大学病院
藤田医科大学 ばんだね病院
藤田医科大学 七栗記念病院
藤田医科大学 岡崎医療センター
藤田医科大学 羽田クリニック
藤田医科大学 中部国際空港診療所



藤田医科大学 七栗記念病院

〒514-1295 三重県津市大鳥町424番地1
TEL (059) 252-1555 (代)
FAX (059) 252-1383
<https://nanakuri.fujita-hu.ac.jp/>
E-mail nanakuri@fujita-hu.ac.jp

【公共交通機関】

○名古屋・伊勢方面から

近鉄名古屋線 久居駅下車、バス榊原車庫前行
(下村経由)に乗車し「七栗記念病院口」下車、徒歩5分
※バス乗車時間約20分、タクシー乗車時間約15分

○大阪・京都方面から

近鉄大阪線榊原温泉口駅下車、タクシー乗車時間約15分

【乗用車】

○伊勢自動車道

久居インターチェンジより7km 約10分

外来診療受付時間

平日:午前8時45分～11時30分 午後1時～3時 土曜日:午前8時45分～11時
休診日:日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
外来の一般診療は、来院順に行われます。診療受付時間内に外来へお越しください。

入院相談受付時間

月曜日～金曜日:8時45分～11時30分 土曜日:8時45分～11時
ご家族による入院相談も来院順に受け付けます。
保険証と主治医からの紹介状、画像データ等ご持参ください。

セカンドオピニオン外来

当院以外の治療に関する意見を提供する外来です。曜日・時間限定の予約制となりますので予めご連絡ください。